

セントラルカリマンタン・セバンガウ川流域のサゴヤシ

岡崎正規¹・Sehat Jaya Tuah²

¹ 東京農工大学大学院生物システム応用科学研究所 〒183-8588 小金井市中町 2-24-16

² University of Palangkaraya, Palangkaraya, Indonesia

Sago palm (*Metroxylon sagu*) along Sebangau river of Central Kalimantan, Indonesia

Masanori Okazaki and Sehat Jaya Tuah

Key words: sago palm, Central Kalimantan, Sebangau river

セントラルカリマンタンの州都であるパラカラヤ (Palangkaraya) へは、ジャカルタから空路2時間あまり

で到着する。平成11年11月24～27日に我々は、インドネシア・セントラルカリマンタンのセバンガウ (Sebangau) 川流域(図1)においてサゴヤシの分布と生育について調査することができた。

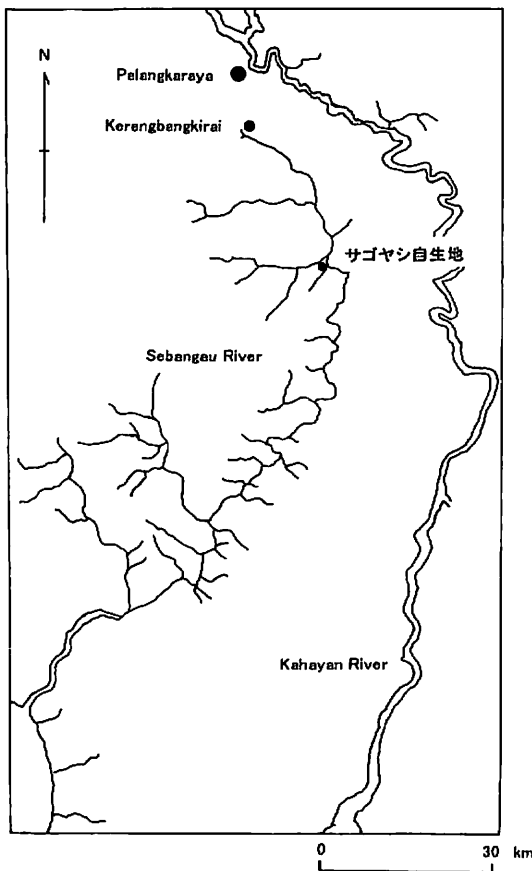


図1 セバンガウ川流域(中央カリマンタン)



写真1 パランカラヤからカランバガンへ向かう道路側溝のサゴヤシ



写真2 バランカラヤからカランバガンへ
向かう道路沿い空農家のサゴヤシ

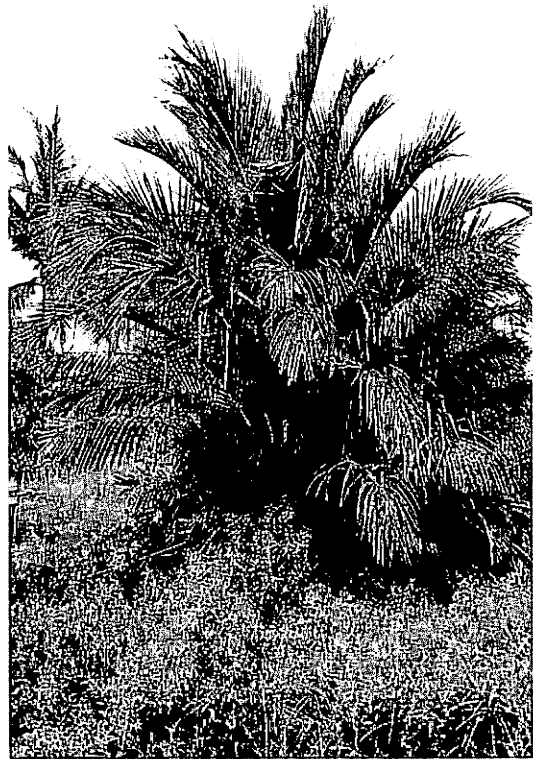


写真3 サゴヤシ自生(残存)地に近いセバンガウ川
沿い農家のサゴヤシ

24日は、バランカラヤ市内からカランバガン(Kalam-pagan)村に向かう道路左右側溝に十数本のサゴヤシ(Metroxylon sagu)(写真1)が観察された。かつては、本地域はサゴヤシの生育密度の高い地域であったとみられるが、今日、農家周辺の凹地に植栽されているサゴヤシは、管理が必ずしも十分でなく、次第に衰退していくものと判断された。

25日は、バランカラヤからカランバガンに向かう道路の右側凹地、空農家の玄関先に植栽されたサゴヤシを観察、概括調査を行い、写真を撮影した(写真2)。

26日の早朝に、バランカラヤ市内を出発し、港の村バンファナン(Banfanan)でスピードボートを借用し、セバンガウ川を南下した。スピードボートで、1997年の森林火災で立ち枯れているフタバガキ科の低湿地林を背後にもつパドゥラン(Paduran)村を通過し、さらにバランカラヤの南10kmにあるケレンバンキライ(Kerengbangkirai)村を経て、さらに南下した。ケレンバンキライを出発し、左岸にサゴヤシ(写真3)がみられた。農家の聞き取り調査では、凶作の年あるいは定期的にサゴヤシ



写真4 サゴヤシ自生(残存)地

から澱粉を抽出することを確認した。さらにセバンガウ川を南下すると右岸に自生(残存)するサゴヤシ林(写真4)が観察できた。セバンガウ川からサゴヤシ林内に入ることはできなかったが、数十本のサゴヤシが密集して群落を形成していた。

27日は、25日に概括調査を実施したサゴヤシについて、細密調査を行い、7本のサッカーを持つ樹高11mの

サゴヤシ1本と樹高4mの長棘をもつサゴヤシ1本が叢を形成していることを明らかにし、葉試料を採取することができた。

バランカラヤ周辺のサゴヤシは、農地開発とともに減少の傾向にあり、今後、サゴヤシの優位性を示す積極的な教育と維持管理がなければ、消滅する可能性があろう。